

第 136 期

# 株主のみなさまへ

2018年4月1日から  
2019年3月31日まで



ISO9001 認証  
JQA-1050



ISO14001 認証  
JQA-EM0365

大阪府東大阪市四條町12番8号

株式会社 ロブテックス



## ● 将来を見すえた設備投資

### 鳥取ロブスターツール株式会社

世界と戦える設備と基幹技術を導入し、  
エビ印工具のモノづくり拠点として更に進化いたします

#### 各種加工機の導入



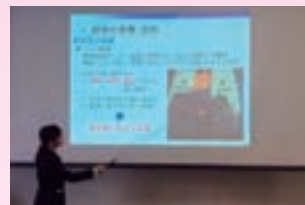
3系統NC同時制御加工により、あらゆる複合加工要素を同一加工機内で完結できる高生産性設備となっています。この他にも「ワイヤーカット機」など各種加工設備の導入を実施いたしました。

#### 工場新築による合理化



新築により合理化をはじめ生産性の向上を行います。

#### 鳥取大学と産学連携による共同研究



鳥取大学大学院工学研究科 知能システム制御研究室と産学連携体制により「金型割れ防止のためのハンマ鍛造音のウェーブレット解析」に取り組み、学会にて学術発表を行いました。



## 老朽化設備の整備による、顧客満足度の追求

#### 駐車場舗装敷設とゲート設置

1991年の開場以来の老朽化により雨の際にアスファルトの凹みに水たまりができ、併せて、近隣施設からの無断駐車が増え、お客様の駐車スペースが減っていました。これらの問題点を解消するため、アスファルト工事・ゲート設置工事を2018年4月に実施しました。



#### 扇風機入替による夏場顧客減少対策

夏場の入場者減少を少しでも防ぐための対策として、従来は、安価な扇風機でしたが、従来の価格の4倍の高級品に入替えたことで、風量が大幅にアップし、お客様から好評を得ています。



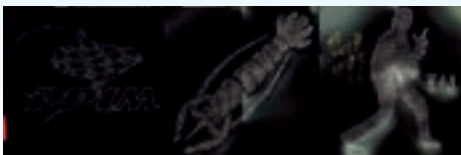
ご紹介します。

## ● 日常の生活に根ざした工具の文化を育てたい

欧米ではクリスマスや誕生日に、父親や彼氏に工具セットを贈る習慣があります。モノづくり大国“日本”にもそういった文化を根づかせたい

東京オートサロン他イベント参加

▼古賀琢麻選手オフィシャルサポーター 横山剣様



コラボレーションによる  
新オフィシャルグッズの展開▶

## ● ブランドの認知度を上げる

戦略的広報活動によるブランド力、商品情報の発信及び発信力の強化

NASCARドライバー古賀琢麻選手のサポート

オフィシャルグッズWEB販売開始



NASCARドライバーの古賀琢麻選手とスポンサー契約を結び、その活動を応援しております。



Instagramの活用



## ● 経営ビジョンと経営スローガンについて

経営ビジョン

# モノづくりのプロに モノづくりの楽しさを育む

経営スローガン

私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、  
つくる楽しさを伝え広げる事で社会に貢献します

プロ  
(仕事)

プロフェッショナルの"モノづくり"の現場を  
高品質の工具で支えます。

- プロが求める品質・付加価値の工具を適正な価格で提供する。
- プロの現場に応じたソリューションを提案する。
- 新素材・新工法を積極的に取り入れ、プロが求める工具を開発・提供する。

生活者  
(趣味)

暮らしの中で"モノづくり"の楽しさを広げ、  
モノづくりの文化を育みます。

- 一般生活者に手に取っていただける工具・関連商品の情報を収集する。
- DIYイベント等に出展し、子ども・家族にモノづくりの楽しさを体験できる場を提供する。
- モノづくりを身近なものとする活動を実施し、暮らしにDIYを普及させ、モノづくりの文化を育む。

あらゆる場面で得られたアイデアが生かされプロ用の工具を進化させる。  
一般生活者目線からの情報による工具・関連商品の商品化を行う。  
モノづくりの楽しさを体験した子どもたちがプロとなり日本のモノづくりを支える。

社員・  
ステーク  
ホルダー

『魅力』があり、『誇り』を持てる会社に。

- 過去から現在までプロの現場を支えているやりがいと満足感。
- 未来のモノづくりへと貢献する欲び。
- 社員がイキイキと働き、業績を向上し、ステークホルダーに貢献する。



## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日頃から温かいご支援をたまわり厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第136期の事業報告をお届けいたしますので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業業績や雇用情勢により、緩やかな回復基調となっておりますものの、労働力不足による人件費上昇に加え、米中貿易摩擦の激化、欧米の政治的な混乱などの懸念材料もあり、景気の先行きについては不透明な状況にあります。

このような状況の下、当社グループは経営スローガンを「目標達成への執念、計画的考動の徹底、知的好奇心の追求」と定め、経営目標達成に向け、社員一人ひとりが何としても課せられた目標を達成しようとする熱意を持ち、その達成のため、日々変化している世の中のあらゆるものごとに興味を持ち、様々な情報に触れ、そこから獲得した知識を材料として、自ら考えて行動する姿勢を醸成すべく努力してまいりました。また、2018年5月に、機能的な組織体制とすべく、開発部を機能別に商品企画、技術開発、購買部門に分割し、営業推進部にお客様情報の集約を目的として受注・アフターサービス部門を統合し、営業部門に取引先別販売チャネルへの適合を目的に機工営業、HC営業、法人営業部門を設置しました。そして、戦略的広報活動によるブランド力強化を推進し、設備投資においては金属製品事業では将来を見据えた新規生産設備等を、レジャー事業ではサービス向上に向けた設備を計画的に進めてまいりました。

その結果、売上高は前年同期比1.1%減の60億9千6百万円（前年同期61億6千2百万円）となり、利益面では経費管理の徹底により予想値を上回ってはおりますものの、広告宣伝費用及び設備投資関連費用の発生や人件費増加影響により、営業利益で同21.5%減の4億3千9百万円（同5億6千万円）、経常利益で同20.1%減の3億9千7百万円（同4億9千7百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益で同21.1%減の2億4千5百万円（同3億1千万円）となりました。

事業別の業績は次のとおりです。

### <金属製品事業>

国内売上は前年同期に比べ減少しました。ハンドツール部門は、新商品投入や拡販努力が奏効した万力類及び工具セットの増加はありましたものの、前年同期に伸長したOEM製品の減少を主因として減少しました。ファスニング部門は、コードレスリッター、工業用ファスナーなどが堅調な販売となりましたが、前年同期に好調であった住宅関連向けのファスニングツールが低調となり、減少しました。切削工具部門については価格競争の厳しさは継続しておりますが、拡販努力により増加しました。

海外売上についても前年同期に比べ減少しました。ハンドツール部門は主力販売国である韓国経済の減速影響を受け、同国向けのプライヤ類や電設工具の売上が低調となりましたものの、レンチ類の拡販施策が奏効したことを主因に増加しました。ファスニング部門は欧州向けに売上の回復が見られましたものの、米国における流通在庫増加影響により、コードレスリッター等のファスニングツールが減少しました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比1.2%減の58億7千4百万円（前年同期59億4千3百万円）となりました。利益面では営業利益が広告宣伝費用及び新規設備関連

費用の発生や人件費増により、前年同期比25.1%減の3億5千3百万円（同4億7千2百万円）となりました。

### <レジャー事業>

記録的な猛暑に加えて、大阪北部地震の影響や大型台風によるゴルフ練習場設備への被害・営業停止はありましたが、駐車場の整備・拡張など、前期より計画的に実施しているサービス向上に向けた設備投資や集客施策により入場者数が増加し、売上高は前年同期比1.1%増の2億2千1百万円（前年同期2億1千9百万円）となりました。営業利益は、設備投資関連費用の発生もあって、同2.0%減の8千5百万円（同8千7百万円）となりました。

今後の経済情勢は企業収益や雇用・所得環境の改善による景気回復傾向の継続が期待されますが、労働力不足による生産・物流コスト上昇傾向の強まりや海外経済動向の不確実性など景気先行きへの懸念事項も多く、予断を許さない状況となっております。

このような見通しの中、当社グループは全社員を丸とする企業文化“コーポレートカルチャー”を醸成し、創立100周年（2023年度）にあるべき姿を目指すため、経営ビジョンを「モノづくりのプロにゆだね、モノづくりの愉しさを育む」、経営スローガンを「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、つくる愉しさを伝え広げる事で社会に貢献します。」と定め、その浸透と発信を図り、経営目標達成に向けて努力してまいります。

なお、2019年4月にコーポレートカルチャーの醸成促進とより機能的な組織体制とすべく、組織改革を実施し、社長室をコーポレートカルチャー醸成に特化させ、営業部に営業企画・推進部門を統合させるとともに、取引先別販売チャネル展開を加速すべくeビジネス推進部門を新設しました。また、顧客満足の充実を図るため、カスタマーサービス部門を独立させました。2019年度においても将来を見据え、金属製品事業では生産設備の拡充を、レジャー事業ではサービス向上に向けた設備投資を計画的に進めるとともに、人的な投資・充実も行ってまいります。

次期の見通しといたしましては、前述の設備・人的投資費用を織り込み、連結売上高で61億3千万円、連結営業利益で2億8千万円、連結経常利益で2億3千万円、親会社株主に帰属する当期純利益で1億4千万円を見込んでおります。

株主のみなさまには、変わらぬご支援、ご指導をたまわりますようお願い申し上げます。

2019年6月

取締役社長

地引俊爲



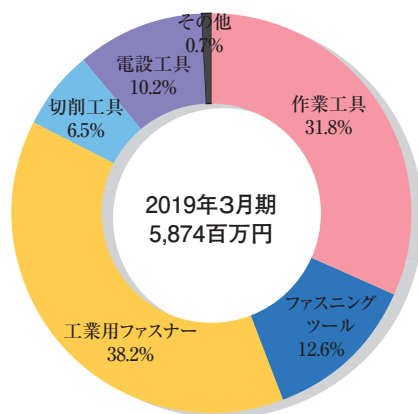
# 連結業績の推移

## ● 営業成績

区 分	第132期 (2015年3月期)	第133期 (2016年3月期)	第134期 (2017年3月期)	第135期 (2018年3月期)	第136期 (2019年3月期)
売上高 (百万円)	5,572 (2,671)	5,910 (2,828)	5,762 (2,780)	6,162 (3,038)	6,096 (3,018)
経常利益 (百万円)	511 (209)	449 (223)	456 (192)	497 (259)	397 (204)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	306 (125)	275 (137)	351 (122)	310 (165)	245 (120)
1株当たり 当期純利益 (円)	325.92 (133.62)	293.19 (146.08)	374.56 (130.56)	332.13 (177.05)	262.55 (128.67)

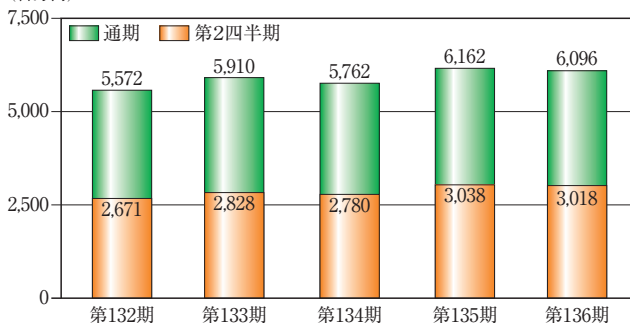
(注) ( ) は第2四半期の数値であります。

## ● 金属製品事業における品種別の売上高構成比



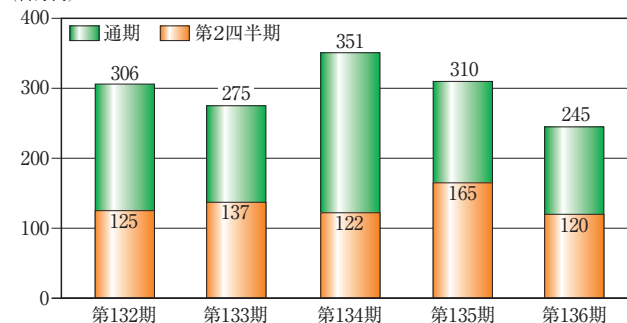
## ● 売上高

(百万円)



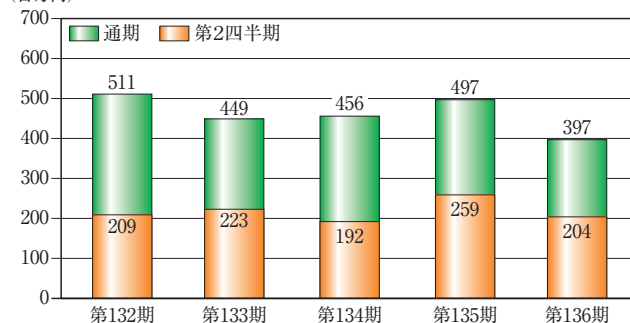
## ● 親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



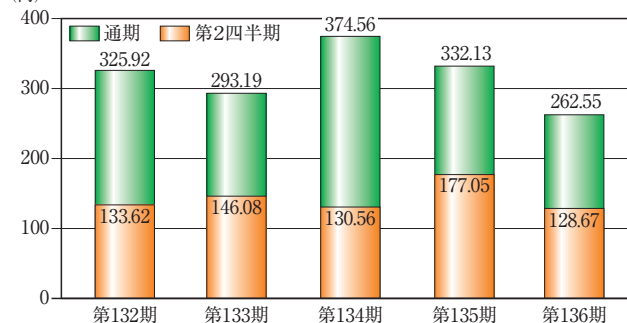
## ● 経常利益

(百万円)



## ● 1株当たり当期純利益

(円)



(注) 2017年10月1日付で普通株式10株につき、1株の割合で株式併合を実施しております。第132期の期首に当該株式併合が実施されたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

# 連結財務諸表

## ● 連結貸借対照表

2019年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	5,211,447	流動負債	2,480,299
現金及び預金	2,073,590	買掛金	229,553
受取手形及び売掛金	1,342,612	短期借入金	1,599,188
電子記録債権	189,004	1年内償還予定の社債	60,000
商品及び製品	1,028,149	リース債務	125,408
仕掛品	299,305	未払法人税等	38,390
原材料及び貯蔵品	214,101	その他	427,759
その他	70,329	固定負債	1,423,318
貸倒引当金	△ 5,646	社債	150,000
固定資産	2,898,202	長期借入金	1,005,686
有形固定資産	2,128,903	リース債務	201,804
建物及び構築物	743,424	退職給付に係る負債	65,047
機械装置及び運搬具	72,061	その他	780
工具、器具及び備品	56,807	負債合計	3,903,618
土地	738,508	(純資産の部)	
リース資産	339,255	株主資本	3,791,879
建設仮勘定	178,846	資本金	960,000
無形固定資産	36,572	資本剰余金	491,045
リース資産	17,794	利益剰余金	2,504,848
その他	18,778	自己株式	△ 164,014
投資その他の資産	732,726	その他の包括利益累計額	222,313
投資有価証券	550,686	その他有価証券評価差額金	222,313
退職給付に係る資産	83,795	非支配株主持分	191,838
繰延税金資産	71,895	純資産合計	4,206,031
その他	33,425	負債・純資産合計	8,109,650
貸倒引当金	△ 7,077		
資産合計	8,109,650		

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

## ● 連結損益計算書

2018年4月1日から  
2019年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		6,096,645
売上原価		3,922,829
売上総利益		2,173,815
販売費及び一般管理費		1,734,219
営業利益		439,595
営業外収益		
受取利息及び配当金	15,046	
受取家賃	9,484	
受取保険金	13,742	
その他	10,227	48,501
営業外費用		
支払利息	33,614	
売上割引	46,580	
その他	10,516	90,711
経常利益		397,385
税金等調整前当期純利益		397,385
法人税、住民税及び事業税	113,946	
法人税等調整額	13,943	127,890
当期純利益		269,495
非支配株主に帰属する当期純利益		24,290
親会社株主に帰属する当期純利益		245,205

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しています。

## ● 会社の概要 (2019年3月31日現在)

設立	1923年8月12日
資本金	9億6千万円
発行済株式総数	1,000,000株
本店所在地	東大阪市四条町12番8号
従業員数	98名(連結188名)
製造販売品目	作業工具 ファスニングツール 電設工具 切削工具 工業用ファスナー

## 事業所

本社	東大阪市四条町12番8号 (〒579-8053)
大阪営業所	東大阪市四条町12番8号 (〒579-8053)
東京営業所	東京都板橋区高島平2丁目6番4号 (〒175-0082)
名古屋営業所	名古屋市北区八竜町1丁目40番地 (〒462-0805)
福岡営業所	福岡市博多区山王1丁目7番9号 (〒812-0015)

## 子会社

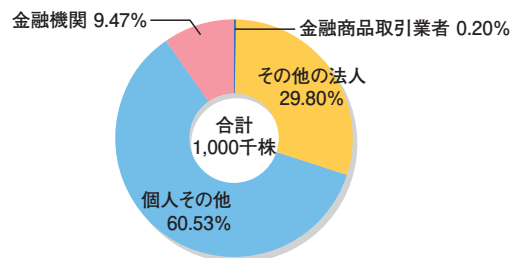
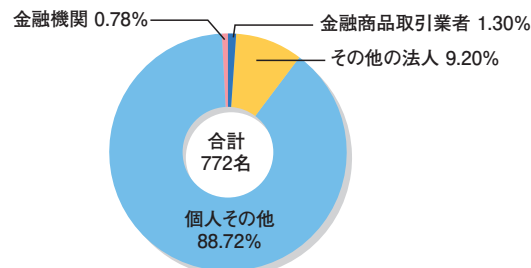
株式会社ロブテックスファスニングシステム
鳥取ロブスターツール株式会社
株式会社ロブエース

## ● 役員 (2019年6月20日現在)

取締役社長 (代表取締役)	地引俊為
取締役	豊島尚規
取締役	山口正光
取締役 (常勤監査等委員)	林邦男
取締役 (監査等委員)	藤本昇
取締役 (監査等委員)	遠藤美智子

## ● 株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	4,000千株
発行済株式総数	1,000千株
株主総数	772名
所有者別株主構成比	



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ先 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料) [受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ <a href="https://www.tr.mufg.jp/daikou/">https://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL <a href="https://www.lobtex.co.jp/lobtex/ir/">https://www.lobtex.co.jp/lobtex/ir/</a> (ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)